

— 広 告 —



岩船翼 (いわふね つばこ)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
北海道 函館ラ・サール高等学校出身

学生がみずから声を上げると 何かを始めることができる大学。

その一言が思いもかけない新しい道をひらいてくれることがある。センター試験で失敗し苦境に立った岩船さんを救ったのは、高校一年の担任の先生の「ブランドではなく、自分にとって良い大学を選べ」であった。名門校だから他の選択肢もあつたけれど、みずからの意志を最優先したのだ。

「ぼくが成長できるのは金沢工

大だと思い、周りの反対を押し切つて決めました。今では、いろんなことに挑戦し、経験を積むことができます。来てよかったと思いません。ボーイングプロジェクトもその一つです。ボーイングの社員から航空業界の現状についてオンライン講義を受け、今後の航空産業の改善・発展に向けた新サービスや新商品のアイデアをプレゼンす

るといふもので、全て英語です。

指導する佐々木大輔准教授の専門は、空力設計、数値流体力学、最適化である。グローバルな技術者の育成のために専門教育だけでなく、英語教育にも力を入れてい

る。岩船さんが英語を得意とするのは、その成果であらう。

「佐々木先生は学生に良い経験になると思ったことをたくさん勧めてくれ、面倒見がいいんですよ。研究テーマは『直交格子法による吸音ライナの流れ場解析』です。航空機のエンジン騒音低減のために吸音ライナという多孔質パネルが使用されています。その性能予測の実現と性能向上を図るために、より効率よく、正確に解析できる新しい手法の検討をしています。」
岩船さんはアメリカに拠点を置く航空関係団体から給付型奨学金（一年分の授業料相当）をもらった。また日本機械学会北陸信越支部の第五十四期総会の講演会で

「若手優秀講演フェロー賞」を受賞。とにかく積極的に各種の学会の発表に向いていくのだ。

「課外活動では夢考房の小型無人飛行機プロジェクトに所属していました。学部二年次には、そのリーダーを務めました。実践を通してマネジメント能力を養えたように思います。このように、この大学では学生が主体となって活動する機会が多いんです。そして、座学で得た知識に加えて、ものづくりを通して、実用的な知恵を修得できること。それが、この大学の強みだと思いますね。」
取材に入ったころは、岩船さんは就活の真っ最中だった。狙っているのは、航空機も船舶も鉄道もやっている大企業である。それならば「名前にピッタリではないか」と激励したのであった。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七七一
電話番号(076)2248100

KIT
キャンパス
レポート②
文・出島二郎
マーケティングプランナー